



国文学研究資料館 2017

平成 29 年度

National Institute of Japanese Literature



三十六歌仙帖(中百三十六人歌合) / 式子内親王

Contents

はじめに	3
概要	4
研究概要	6
日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画	8
事業概要	16
国際交流	23
大学院教育	25
公開データベース	26
教員一覧	27
参考データ	29
人間文化研究機構	30

はじめに

国文学研究資料館

館長 ロバート キャンベル

今西祐一郎前館長からタスキを受け取り、国文学研究資料館（国文研）の館長に就任しました。私ごとですが、1990年代の後半をここで教員として過ごし、その後、東京大学（駒場キャンパス）へ移り、この春に17年ぶりに古巣に戻る格好となりました。その間、国文研は場所も外見も一変しました。多くの教職員も交替しました。何よりも、文系基礎学を取り巻く社会的状況と情報技術の変化によって、前世紀の面影はほとんどありません。

活字離れや少子化、インターネットの普及などが原因で文学が社会と結び合うダイナミズムが減退している、と一部では言われています。しかし私は逆に、今日ほど、日本の長い歴史に生まれ「文学」として伝わっている人文知から多くのことを学び、感じ取るのに適した時代はなかったように思います。

1300年以上の歴史を刻む文学に対する理解は、日本という1カ国の中で完結するものではありません。日本は、上代から東アジア文明世界の中で成り立ちました。中世から近世にかけては世界の情報を俊敏に捉え、自律的な文化を築き、近代では欧米の文明に活潑な交渉を持ち続けました。私たちが「文学」と呼んでいる作品は、近代より前においては歴史、思想、兵法、宗教、美術史などを包容するいわば「人間学」と呼ぶにふさわしい広大な領域を形成しています。

かつての日本文学には美しく多様な表記体系があり、口承性や図像との融合といった人間の感覚に訴える様式の幅もありました。「他者の目を通して世界を見る能力」、言い換えれば共感するキャパシティを教養と呼ぶのなら、従来の日本文学にはその能力に応え、支え、そして深める条件を十分に満たしていることは間違いありません。

共感し、他者から世界へとつながることを望まない人はいないと思います。しかし確かな理性と、検証を可能とするファクトに裏打ちされない「共感」ほど人を不幸にするものはないことも、歴史が教えてくれます。国文研のミッションを人に問われれば、私は「文字で書かれた人間による想像の軌跡を留め、整理し、現代の感性と知性に開放し活用することである」と答えたい。

この概要は、当館の施設利用案内から国際交流の実態、組織のあらましと事業計画、実施状況などまで多くのことを知っていただくために作られたものです。従来の調査収集と国文学論文データベース構築の成果をふまえ、3年前から全館態勢で取り組んでいる大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」についても分かりやすくまとめられています。後者では、半世紀近くにわたり積み上げられた実績を活かし、30万タイトルという膨大な古典籍画像にタグ付けしオープンデータ化させ、国内外の研究者と連携することによって古典を現代に開放するための学術研究を推進しています。研究者が先頭に立って一言語圏の原資料を形態と内容両面から捉えるプロジェクトとして、世界では類を見ない仕組みです。持続的な取り組みから、文学を通して、現代社会と結び合うダイナミズムを見出すことができるかと信じる次第です。

刻々と変化する学術の姿を見据えながら、大学共同利用機関としての使命を果たしていきます。もちろん、課題もあります。ウェブサイトの他言語化や、日本文学以外の研究者との連携深化、文化的創造への活用方法、次世代の人材育成等々です。皆様の知恵と一層のご協力を頂きたいと切に願っているゆえんです。



概要

国文学研究資料館のめざすもの

国文学研究資料館は、国内各地の日本文学とその関連資料を大規模に集積し、日本文学をはじめとする様々な分野の研究者の利用に供するとともに、それらに基づく先進的な共同研究を推進する日本文学の基盤的な総合研究機関です。創設以来40年にわたって培ってきた日本の古典籍に関する資料研究の蓄積を活かし、国内外の研究機関・研究者と連携し、日本の古典籍を豊かな知的資源として活用する、分野を横断した研究の創出に取り組みます。

沿革

- 昭和41年12月 日本学術会議が「国語・国文学研究資料センター（仮称）」の設置を政府に勧告
- 昭和45年9月 学術審議会が「国文学研究資料センター（仮称）」の緊急設置を文部大臣に報告
- 昭和46年4月 文部省に、国文学研究資料の施設の整備に関する調査等の経費計上
- 昭和47年5月 国文学研究資料館創設（管理部、文献資料部、研究情報部）
文部省史料館（昭和26年設置）が、国文学研究資料館の組織に組み入れられる
- 昭和52年6月 開館式挙行
- 昭和52年7月 閲覧サービス開始
- 昭和54年4月 整理閲覧部設置
- 昭和62年4月 マイクロ資料目録及び当館蔵和古書目録データベースのオンライン検索サービス開始
- 平成4年4月 国文学論文目録データベースのオンライン検索サービス開始
- 平成14年11月 創立30周年記念式典挙行
- 平成15年4月 総合研究大学院大学文化科学研究科日本文学研究専攻が設置され、基盤機関となる
- 平成16年4月 大学共同利用機関法人人間文化研究機構国文学研究資料館となる
法人化に伴い、館内組織を改組
- 平成20年3月 立川市緑町の現在地に移転
- 平成25年4月 古典籍データベース研究事業センター設置
- 平成26年4月 古典籍データベース研究事業センターを古典籍共同研究事業センターに改組

施設について

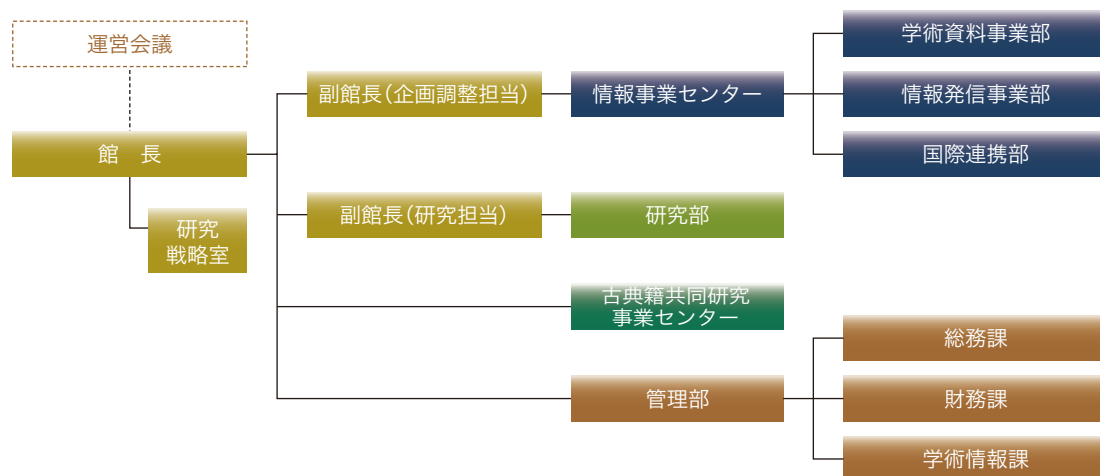
当館は、東京都区部の過密解消や、東京への諸機能の過度の集中の抑制などのために、平成元年8月及び平成5年6月の「国の機関等移転推進連絡会議」において移転が決定し、平成20年3月に品川区から立川市に移転しました。

施設は、バリアフリー対応とし、来館者の利便性を考慮した設計となっています。

来館者が利用するスペースとして閲覧室と展示室があります。閲覧室は参考図書をすべて開架にしておき、広々としたスペースでゆったりと閲覧ができます。また、展示室では当館所蔵の古典籍による通常展示等を行います。



組織図



運営会議

館外委員

安達 淳	情報・システム研究機構国立情報学研究所副所長
飯倉 洋一	大阪大学大学院文学研究科教授
井口 和起	福知山公立大学長
池田 和臣	中央大学文学部教授
伊藤 早苗	九州大学理事・副学長
上野 健爾	四日市大学関孝和数学研究所長
大谷 雅夫	京都大学大学院文学研究科教授
河添 房江	東京学芸大学教育学部教授
木村 茂光	帝京大学文学部教授
高岸 輝	東京大学大学院人文社会系研究科准教授
中島 国彦	早稲田大学名誉教授
マイケル・ワトソン	明治学院大学国際学部教授

館内委員

大友 一雄	研究部教授(研究主幹)
落合 博志	研究部教授
神作 研一	研究部教授(研究主幹)
小林 健二	副館長(企画調整担当)
齋藤真麻理	研究部教授(研究主幹)
谷川 恵一	副館長(研究担当)
山下 則子	研究部教授
渡辺 浩一	研究部教授

役職員

館長	ロバート キャンベル
副館長(企画調整担当)	小林 健二
副館長(研究担当)	谷川 恵一

研究部

研究主幹	大友 一雄
研究主幹	神作 研一
研究主幹	齋藤真麻理

情報事業センター

情報事業センター長(併任)	小林 健二
学術資料事業部長(併任)	神作 研一
情報発信事業部長(併任)	大友 一雄
国際連携部長(併任)	齋藤真麻理

総合研究大学院大学文化科学研究科

日本文学研究専攻長	落合 博志
-----------	-------

古典籍共同研究事業センター

センター長(併任)	谷川 恵一
副センター長(併任)	山本 和明
事務室長(併任)	山口 茂

管理部

管理部長	山口 茂
総務課長	岡田 耕作
財務課長	窪川 友行
学術情報課長	大塚 克威

研究概要

資料の調査研究と国内外の諸機関との研究交流に基づき、日本文学などの基礎研究と国際研究の新たな研究の進展を図るため、以下の共同研究を行っています。この共同研究のために当館では外部委員が参加する共同研究委員会を設置しています。

■ 基幹研究

研究の基盤となる日本文学及びその関連資料に関する基礎研究を進展させる基幹研究を3課題実施しています。

● 鉄心齋文庫伊勢物語資料の基礎的研究 (平成28年度～30年度)

研究代表者：小林 健二 国文学研究資料館・教授

本研究は、国文学研究資料館に寄贈された『伊勢物語』のコレクションとして名高い鉄心齋文庫の多種多様な資料を総合的に調査して「鉄心齋文庫目録」を作成し、研究資源として活用できる基盤を整備するものである。また、特別展示「伊勢物語のかがやき—鉄心齋文庫の世界」を開催して鉄心齋文庫の貴重な資料を広く紹介するとともに、研究内容を研究報告書などで公開することにより、『伊勢物語』研究の活性化をはかる。

● アーカイブズと地域持続に関する研究 (平成28年度～30年度)

研究代表者：渡辺 浩一 国文学研究資料館・教授

本研究は、東日本大震災による被災地域の再開発や人口減少に伴う地方消滅といった震災後に訪れた急激な地域社会の変動に対して、アーカイブズを通して地域持続の問題を考えようとするものである。研究は、公文書に関しては行政機関による制度設計のあり方、民間資料に関してはボランティア活動による普及活動のあり方、以上の二つのテーマにより行われている。

● 日本語の歴史的典籍データベースの検索に関する総合的研究 (平成27年度～29年度)

研究代表者：相田 満 国文学研究資料館・准教授

本研究は、大規模学術フロンティア促進事業「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」において作成される画像データベースの検索に関する研究を行うものである。

全分野に及ぶ古典籍の画像をいかに効率的に検索するか、検索方法・対象項目等を検討するとともに、それに基づくタグ付け作業を実践する。担当する当館教員の専門分野に即し、文学及び歴史学を中心に作業を進め、その実例を踏まえた上で、膨大な画像データベースを使いこなすための有効かつ効率的なタグ付け方式を確立することを目的とする。

■ 特定研究

日本文学研究をより広い視野から進展させる課題に取り組む特定研究を4課題実施しています。すべての課題は公募によるものです。

公募 (一般)

当館の所蔵資料 (原本資料・マイクロフィルム資料等) を活用した日本文学及び関連諸分野を含む創造的で幅広い研究。若手研究者の参加を奨励しています。

● ベトナム社会科学研究所蔵旧フランス極東学院資料についての研究 (平成27年度～29年度)

研究代表者：和田 敦彦 早稲田大学・教授

本研究は、ベトナム社会科学研究所 (Vietnam Academy of Social Science) の社会科学情報研究所 (Institute of Social Sciences Information) が所蔵する日本語文献について、調査、目録作成、分析、及びその保存、公開の支援を主たる目的とする。

公募(若手)

若手研究者による明確な目標と適切な研究計画を有する、日本文学に関する創造的研究。

●山鹿素行関連文献の基礎的研究

(平成28年度～29年度)

研究代表者：中嶋 英介 蘭州大学(中国)・外籍教師(国文学研究資料館・客員研究員)

近世思想家山鹿素行の著作は廣瀬豊編『山鹿素行全集 思想篇』(岩波書店 1940～2)等を基礎的史料として採用されてきた。しかし素行関連の著作は抄録・未翻刻文献が多く、その全容は明らかにされていない。素行の関連文献は平戸・津軽等に点在するが、平戸山鹿家蔵の資料は国文学研究資料館に近年移管され、一部が閲覧可能である。

本研究では1300点以上にも及ぶ「山鹿文庫」を軸に『山鹿素行全集』を見直すとともに、これらの資料情報を国内外へも発信し、研究者間の共有をはかる。

●幕末地方歌壇の研究 –佐賀藩の場合–

(平成29年度～30年度)

研究代表者：三ツ松 誠 佐賀大学・講師(国文学研究資料館・客員研究員)

現在の学界において、近世後期の佐賀藩(及びその支藩)で和歌が盛んなものであったとする認識は薄く、研究もまた活発ではない。しかし地域の古い研究が明らかにするところに従えば、幕末には藩主周辺の和歌サークル小車社や藩校の和学寮を拠点とした国学系の和歌文化が広がっていたことになる。全国的に見て、必ずしもそれが低調なものだったとは言えないのではないか。そこで本研究では、幕末佐賀歌壇の活動実態を明らかにして、その特質を全国的な動向の中に定位することを目的とする。

公募(課題)

包括的なテーマを設定し、可能性とオリジナリティーに富む個別研究を公募により採択して実施する共同研究。

●怪力乱神の文学 –怪異・神秘・混乱–

(平成27年度～29年度)

研究代表者：太田 真理 フェリス女学院大学・非常勤講師

文学には、日常の理法を破壊し、見たことのない世界を開示する力がある。神話的に想像し、神秘を語り、怪異や天変を現出させる多くの作品を、時代・ジャンルを超えて考察していく。

本研究では、古代から近世にわたる時代の、歌、演劇(歌舞伎、浄瑠璃)、絵巻と語り、縁起等を素材として、歴史、美術、民俗等の近接分野との交渉も視野に、文学に表れた「怪力乱神」—怪異・神秘・混乱について多面的に研究する。

(個別課題)

- ・『万葉集』にみる「怪力乱神」—古代の「をとめ」を視座として—
- ・中世説話絵画における異形の視覚化—逸脱するものの「語り」をめぐって—
- ・朝倉氏の御霊化と鎮魂の文学—伝承・伝説の中に息づく朝倉文化—
- ・狐と怪力乱神 近世演劇における怪異・神秘・混乱の探究

日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画

(略称：歴史的典籍NW事業)

本計画は、当館が中心となり、国内外の大学等と連携して、古典籍約30万点の画像化を行い、国文学研究資料館に既存の書誌データベースと統合して自在に画像を検索するデータベース「新日本古典籍総合データベース」を作成し、その画像を用いて国際的な共同研究のネットワークを構築するものです。研究分野は国文学のみならず人文学全体、さらには自然科学の諸分野に及ぶもので、分野を超えた横断的な研究成果が期待できます。

また、こうした古典籍の画像化は、文化財危機（原本資料の破損・劣化、自然災害による消失等）への対応ともなり、文化財の後世への継承に貢献できることとなります。



本計画のイメージ

実施計画

平成26年度から平成35年度までの10年間で実施します。国際的に共同研究を展開し、併せて共同研究のテーマと連動させながら歴史的典籍に関するデータベース「新日本古典籍総合データベース」の構築と拡張を進めていきます。

構築したデータベースは、分野別に順次公開する予定です。

①日本語の歴史的典籍DBの構築

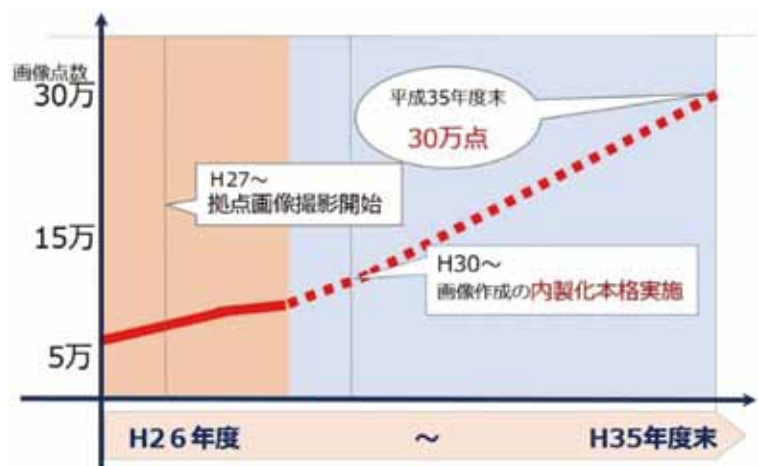
- ◆30万点の画像データの作成
- ◆大規模提供システムの運用
- ◆検索機能の向上・多言語対応

②国際共同研究の推進

- ◆異分野融合研究の醸成
- ◆「総合書物学」の推進・構築

③国際共同研究ネットワークの構築

- ◆連携機関との共同研究体制構築
- ◆先導的な共同研究モデルの構築

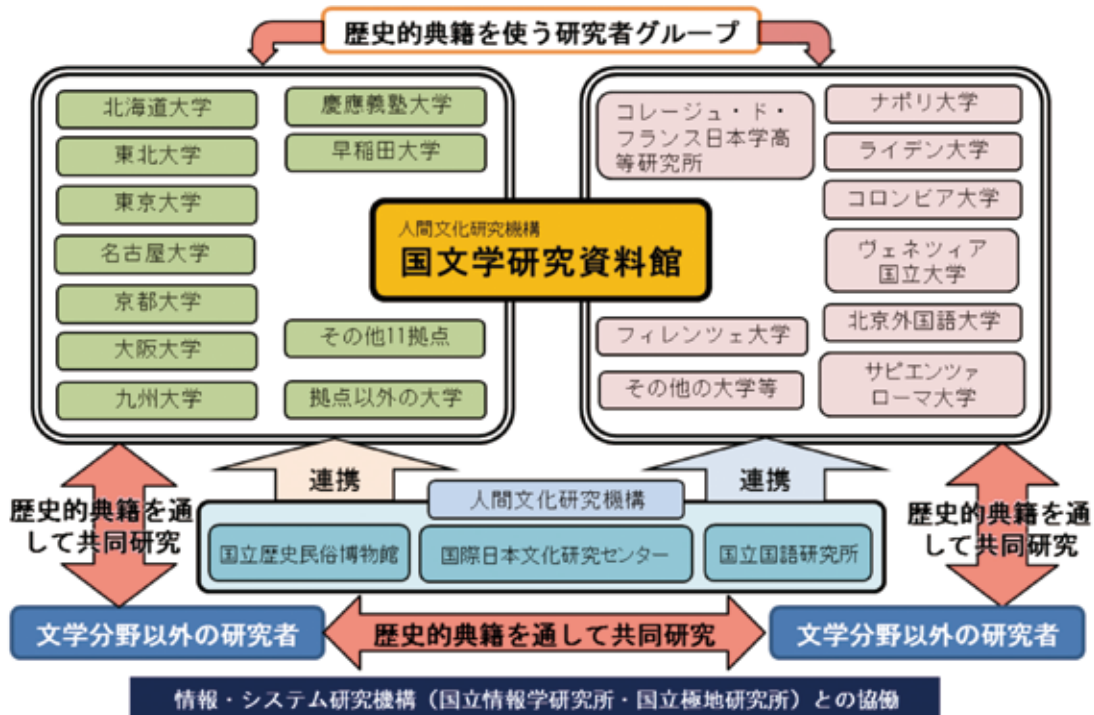


前年度に続き、医学・理学・思想分野を中心とした画像作成、ならびに新規に産業、武学・武術、宗教分野も含め、当館、拠点大学及び研究機関等において実施。引き続き専門性の高い分野別収集を推進します。翌年度4月以降、順次公開予定です。

実施体制

平成26年4月に、当館に本計画を推進するために古典籍共同研究事業センターを設置しました。当館のほか、人間文化研究機構の各機関や、国私立大学に設置する20拠点及び国外の研究機関、並びに国立情報学研究所、国立極地研究所等と連携して本計画を実施しています。

古典籍共同研究事業センターには、センター運営委員会（旧 事業実施委員会）、日本語歴史的典籍ネットワーク委員会、国際共同研究ネットワーク委員会、拠点連携委員会を置き、学識経験者や研究者コミュニティの意見をふまえて、本計画を推進しています。また、平成28年11月にセンター運営委員会の下に新たに館内にNW事業実施委員会を置くことで、当館の全ての教員が本計画の全体を把握し、役割と責任を分担しつつ事業を推進していくための館内の体制を整備・強化しました。



国際共同研究ネットワークのイメージ

平成28年度の画像情報作成状況

●拠点大学：デジタル撮影

北海道大学、東北大学、筑波大学、お茶の水女子大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、奈良女子大学、神戸大学、九州大学、関西大学(拠点11大学 合計3,426点・約585,000コマ)



北海道大学附属図書館所蔵資料
『北蝦夷餘誌(きたえぞよし)』



名古屋大学附属図書館(岡谷文庫)所蔵資料
『倭名類聚鈔(わみょうるいじゅしょう)』

●医学・理学分野を中心とした専門性の高い分野別収集：デジタル撮影

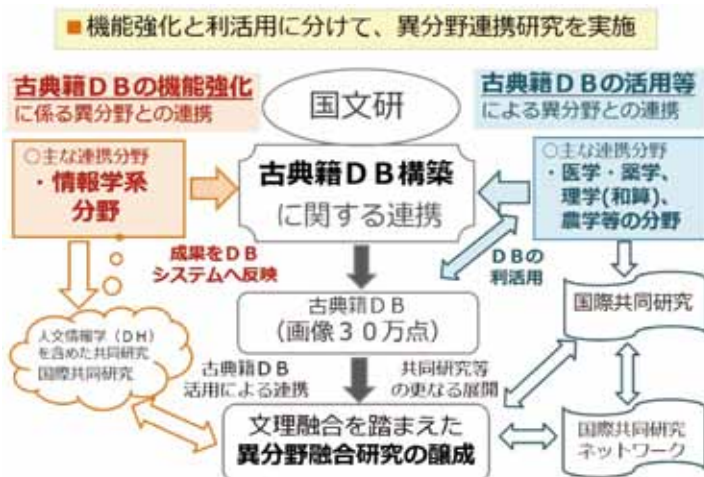
研医会図書館(医学)、国立天文台(理学)

●マイクロフィルムからの画像作成

宮内庁書陵部所蔵マイクロフィルム、当館所蔵マイクロフィルム(UCバークレー校所蔵三井文庫等)

共同研究

本計画は、国内外の多様な分野の研究者が参加した研究ネットワークを作り上げることによって、膨大に集積された日本古典籍に新たな研究の光を当て、それらを知的資源として活用していくことを目的としています。この目標に向け、本計画においては、すべての分野を網羅する30万点の日本古典籍の全冊画像データベースの構築に国内の諸大学と共同して取り組むとともに、先導的な共同研究を実施し、広く多様な分野の研究者に参画を促します。



国際共同研究

海外の研究者を中心に日本文化を総合的に研究するテーマに取り組む、日本古典籍を広い視野から利活用する共同研究です。

●江戸時代初期出版と学問の総合的研究

研究期間：平成27(2015)年4月～平成30(2018)年3月

研究代表者：ピーター・コーニツキー

(ケンブリッジ大学アジア中東研究学部名誉教授)

●境界をめぐる文学—知のプラットフォーム構築をめざして—

研究期間：平成27(2015)年4月～平成30(2018)年3月

研究代表者：今西 祐一郎(国文学研究資料館名誉教授)



公募型共同研究

一般公募による共同研究です。

●草双紙を中心とした近世挿絵史の構築

研究期間：平成26(2014)年10月～平成29(2017)年9月

研究代表者：佐藤 悟(実践女子大学文学部教授)

●紀州地域に存する古典籍およびその関連資料・文化資源の基礎的研究

研究期間：平成26(2014)年10月～平成29(2017)年9月

研究代表者：大橋 直義(和歌山大学教育学部准教授)

●日本漢詩文における古典形成の研究ならびに研究環境のグローバル化に対応した日本漢文学の通史の検討

研究期間：平成26(2014)年10月～

平成29(2017)年9月

研究代表者：合山 林太郎

(慶應義塾大学文学部准教授)



● **近世日本を中心とする東アジアの理学典籍に関する国際共同研究**

研究期間：平成26(2014)年10月～平成29(2017)年9月

研究代表者：小川 東(四日市大学環境情報学部教授)

● **近世日本科学史典籍の国際的再評価に向けた基盤研究**

研究期間：平成26(2014)年10月～平成29(2017)年9月

研究代表者：佐藤 賢一(電気通信大学大学院情報理工学研究科准教授)



異分野融合共同研究

【文献観光資源学】総括：谷川 恵一(国文学研究資料館研究部教授)

● **津軽デジタル風土記の構築**

研究期間：平成29(2017)年4月～平成32(2020)年3月

研究代表者：瀧本 壽史(弘前大学教育学部准教授)

● **碑文のデジタル復元に関する手法研究と実践**

研究期間：平成29(2017)年4月～平成32(2020)年3月

研究代表者：上楯 英之(国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター客員研究員)

● **GISを用いた総合地域情報に関する国際発信方法に関する研究**

研究期間：平成29(2017)年4月～平成32(2020)年3月

研究代表者：山本 和明(国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター特任教授)

【典籍防災学】総括：山本 和明(国文学研究資料館古典籍共同研究事業センター特任教授)

● **典籍等の天文・気候情報に基づく減災研究の基盤整備**

研究期間：平成28(2016)年4月～平成32(2020)年3月

研究代表者：片岡 龍峰(国立極地研究所准教授)

● **気候変動に関する適応戦略構築のための工学的アプローチ**

研究期間：平成28(2016)年4月～平成32(2020)年3月

研究代表者：田村 誠(茨城大学地球変動適応科学研究機関准教授)

【和食と伝統医学の研究】総括：小林 健二(国文学研究資料館研究部教授)

● **古典籍を活用した和漢薬に関する総合研究**

研究期間：平成27(2015)年7月～平成32(2020)年3月

研究代表者：小松 かつ子(富山大学和漢医薬学総合研究所教授)

● **料理・調味料の復元と活用に関する研究**

研究期間：平成28(2016)年7月～平成32(2020)年3月

研究代表者：神松 幸弘(立命館大学グローバル・イノベーション研究機構専門研究員)



『訓蒙天地辨(くんもうてんちべん)』



『広惠濟急方(こうけいさいきゅうほう)』

※研究期間は予定です。

■ 拠点主導共同研究

国内拠点の研究者が研究代表者となり、拠点の研究者を中心に研究組織を構成して実施する共同研究です。



東北大学で開催された「新たな古典学としてのリテラシー史研究—多分野融合による可能性を求めて—」
(平成28年9月10日～11日)



九州大学で開催された「近世日本の長崎・対馬・薩摩と対外交流—情報共有基盤の構築へ向けて—」
(平成28年9月21日)

■ 国文研主導共同研究

「総合書物学」の構築を目指す共同研究3件を科学研究費等の外部資金を活用し実施しています。

● 書誌学・文献学の再構築

研究期間：平成27(2015)年4月～平成30(2018)年3月
研究代表者：谷川 恵一(国文学研究資料館研究部教授)

● 青少年に向けた古典籍インターフェースの開発

研究期間：平成27(2015)年4月～平成30(2018)年3月
研究代表者：小山 順子(国文学研究資料館研究部准教授)

● 日本古典籍の比較書誌学的研究

研究期間：平成29(2017)年4月～平成32(2020)年3月
研究代表者：落合 博志(国文学研究資料館研究部教授)

■ 機構内連携共同研究

異分野融合の観点から「総合書物学」の構築を目指す共同研究を、人間文化研究機構の国立歴史民俗博物館、国立国語研究所、国際日本文化研究センターと連携し「広領域連携型基幹研究プロジェクト」として、当館が主導機関となり実施しています。

● 異分野融合による総合書物学の構築

統括代表者：谷川 恵一
(国文学研究資料館教授)
研究期間：平成28(2015)年4月～
平成34(2022)年3月



各研究ユニット

● 古代の百科全書『延喜式』の多分野協働研究

研究代表者：小倉 慈司(国立歴史民俗博物館准教授)

● 表記情報と書誌形態情報を加えた日本語歴史コーパスの精緻化

研究代表者：高田 智和(国立国語研究所准教授)

● キリシタン文学の継承：宣教師の日本語文学

研究代表者：郭 南燕(国際日本文化研究センター准教授)



研究開発系共同研究

検索機能の高度化等を推進するため、研究開発系共同研究8件を実施しています。

- 典籍画像からのテキスト化とキーワード抽出に関する研究 (公立ほこだて未来大学)
- 「新古典籍総合目録データベース」のマルチリンガル化対応のための基礎研究 (立命館大学)
- 検索機能の高度化に係る総合的研究 (国立情報学研究所)
 - ・ 全冊画像のデータセット化における提供の効率化
 - ・ 画像分析による異本判断の省力化
 - ・ 絵検索におけるコンピュータ上での記述方法に関する研究

「画像分析による異本判断の省力化」の成果の一例



① 2枚の画像から抽出した特徴点の対応付け



② 2枚の画像を重ね合わせ、画素値の差分に応じて赤/白/青のカラーチャートで色づけした結果。

- 「日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワーク構築計画」における典籍の全文テキスト化に関する検討協力 (凸版印刷株式会社)
- 古文書および古典籍を対象とした、ブックスキャナの開発に関する共同研究 (株式会社PFU)
- テキスト共同作成ツールの開発
- 墨消し、水ぬれ本等の判読を可能とする撮影技法
- TEI (Text Encoding Initiative)の導入

新日本古典籍総合データベース

歴史的典籍NW事業の推進基盤となる画像データベース「新日本古典籍総合データベース (Database of Pre-modern Japanese Works)」が平成29年4月に公開されました。画像タグ検索やIIIF (トリプルアイエフ) 対応ビューワーといった新機能が追加され、現在約5万8千点分の画像をみることができます。今後は国内の大学等と連携し、古典籍30万点を擁する大規模画像データベースとなる予定です。また、文学分野のみならず医学・理学分野等の古典籍画像も多く含まれており、人文学以外の研究者との異分野融合研究を醸成する基盤設備として、さらに発展していく予定です。

公開サイト <http://kotenseki.nijl.ac.jp/>



オープンデータの取り組み

当館では、古典籍をもっと自由に研究・活用いただくため、当館所蔵資料のオープンデータ化を進めています。その取り組みの一つとして、情報・システム研究機構の国立情報学研究所及びデータサイエンス共同利用基盤施設人文学オープンデータ共同利用センター（以下CODH）との協働により、CODHのサイトから以下の3種類のデータセットを公開しています。いずれのデータも「クリエイティブ・コモンズ 表示 - 継承 4.0 国際 ライセンス (CC BY-SA)」の下に提供していますので、この条件に同意される方であれば、どなたでもご利用いただけます。

当館オープンデータのサイト http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/data_set_list.html

●日本古典籍データセット

【公開日】平成28年11月10日（木）

【点数】700点（『源氏物語』『徒然草』など国文学分野のほか、当館で収集した、医学や理学、産業など多分野の古典籍を含んでいます。）

- 【構成】①古典籍画像データ
②書誌データ
③本文テキストデータ
④タグデータ

【公開サイト】<http://codh.rois.ac.jp/pmjt/>

【反響】読売新聞（11月18日、11月20日）に掲載されました。



●日本古典籍字形データセット

【公開日】平成28年11月17日（木）

【点数】約8万字

- 【構成】①原本補正画像データ
②文字座標データ
③文字画像データ
④作業報告書

【公開サイト】<http://codh.rois.ac.jp/char-shape/>

【反響】INTERNET Watch（11月17日）、国立国会図書館カレントアウェアネス（11月18日）などに掲載されました。

●江戸料理レシピデータセット

【公開日】平成28年11月24日（木）

【点数】107種類（うち20種類は現代語訳データ有り、更にそのうち5種類は現代レシピデータ有り）

- 【構成】①原本画像データ
②翻刻テキストデータ
③現代語訳データ
④現代レシピデータ

【反響】NHK首都圏ニュースでの放映のほか、読売新聞（11月25日）、朝日新聞（11月25日）、その他、多数メディアでの反響がありました。

【公開サイト】<http://codh.rois.ac.jp/edo-cooking/>

CODHでの公開のほか、「クックパッド江戸ご飯」での公開も実施しています。



平成28年度の活動状況

本計画の活動状況について、広く社会の理解を得るため、国際研究集会のライブ配信や、市民参加型の取り組みを中心に活動を行っています。

- 第2回日本語の歴史的典籍国際研究集会「日本古典籍への挑戦—一知の創造に向けて—」を開催しました（平成28年7月29日～30日 当館主催）。各パネルの発表要旨をウェブサイトに掲載しました（和文・英文）。当日の様様をインターネット上にライブ配信しました。



第2回日本語の歴史的典籍国際研究集会

- 人文科学とコンピュータシンポジウム「じんもんこん2016」「人文学情報の継承と進化～ビッグデータとオープンデータの潮流の中で～」を当館及び国立国語研究所で開催しました（平成28年12月9日～11日 当館共催）。併設イベントとして「歴史的典籍オープンデータワークショップ（アイデアソン）」を開催しました（平成28年12月9日 当館主催、国立国会図書館、国立情報学研究所、データサイエンス共同利用基盤施設 他共催）。



歴史的典籍オープンデータワークショップ（アイデアソン）

- 市民参加型ワークショップ「古典」オーロラハンター2を開催しました。異分野融合研究として注目を浴びた昨年に引き続き2回目です。市民からも参加希望が多数寄せられました。（平成29年2月19日 当館、国立極地研究所、総研大・学融合推進センター主催）。



「古典」オーロラハンター2

- 本計画を紹介するニュースレター「ふみ」を2回（6号、7号）発行しました。ホームページからPDF版（1号～7号）の配信もしています。



URL : http://www.nijl.ac.jp/pages/cijproject/newsletter_fumi_new.html

事業概要

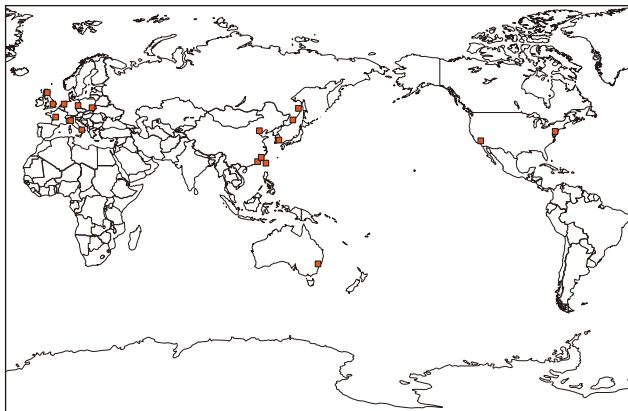
事業の目的

国内外に所蔵されている日本文学及び関連資料の専門的な調査研究と、撮影及び原本による収集を行い、得られた所在・書誌情報を整理・保存し、日本文学及び関連分野の研究基盤を整備しています。また、これらを様々な方法で国内外の利用者に提供するとともに、展示・講演会等を通じて社会への還元を行っています。

1 調査収集

全国の大学等に所属する研究者と連携し、日本文学及び関連する原典資料（写本・版本等）の所蔵先に赴き、書誌的事項を中心とした調査研究を行っています。

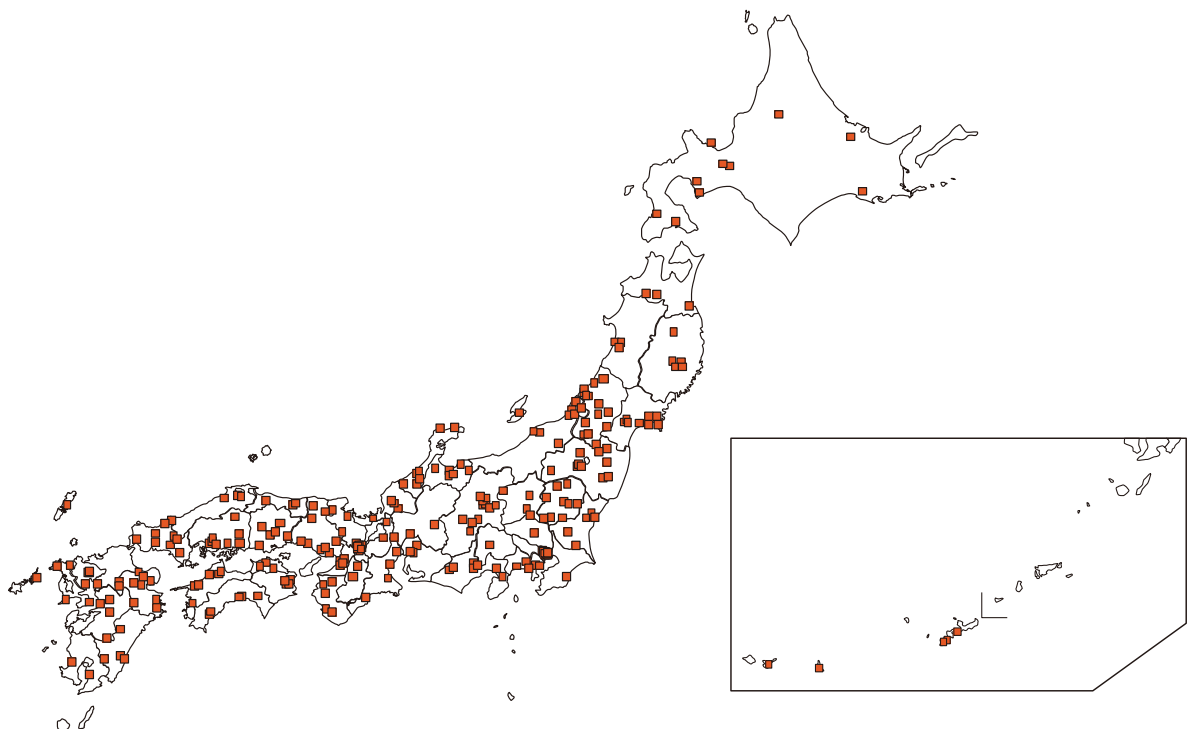
こうした調査研究と併行して、全国の図書館・文庫等に所蔵される原典資料を、マイクロフィルム又はデジタル画像として全冊撮影することによって収集し、一般に提供しています。



これまでの調査・収集件数

調査	国内	1,035箇所	415,764点
	海外	67箇所	16,367点
収集	国内	381箇所	206,253点
	海外	13箇所	1,518点

全国に散在する日本文学及び関連資料の数は、おおよそ100万点と推計されており、現在その約20%がフィルム、画像、または原本によって当館で読むことが可能になっています。



■平成28年度調査箇所一覧

北海道・東北地区

北海道教育大学附属図書館(札幌校)
江差町郷土資料館
米沢市立米沢図書館
宮城県図書館
いわぎ明星大学図書館

関東地区

宮内庁書陵部
東京大学文学部国文学研究室
東京芸術大学附属図書館(協本文庫)
最明寺
星槎ラボラトリー(眞山青果文庫)

中部地区

柏崎市立図書館
石川県立図書館(川口文庫)
富山市立図書館(山田孝雄文庫)
舟津神社
池田三郎

嵐牛蔵美術館

浜松市立賀茂真淵記念館

金城学院大学図書館

名古屋市蓬左文庫

名古屋市博物館

大垣市立図書館

近畿地区

津市図書館

芭蕉翁顕彰会

京都女子大学(蘆庵文庫)

京都府立総合資料館

京都市歴史資料館

京都国立博物館

陽明文庫

大阪天満宮御文庫

春日大社

中庄新川家

瑞光寺

貝塚御坊願泉寺

中国・四国地区

鳥取県立図書館

鳥取県立博物館

島根大学附属図書館

手銭記念館

岡山大学附属図書館(池田文庫)

正宗文庫

広島市立中央図書館

広島大学図書館

三原市中央図書館

光市文化センター

萩市立図書館

鎌田共済会郷土博物館

総本山善通寺

香川大学図書館(神原文庫)

愛媛県立図書館

宇和島伊達文化保存会

大洲市立図書館

徳島県立図書館(森文庫)

九州・沖縄地区

柳川古文書館

佐賀県立図書館

徴古館

祐徳稲荷神社(中川文庫等)

長崎大学附属図書館経済学部分館

長崎県立対馬歴史民俗資料館(津江文庫)

諏訪神社(諏訪文庫)

肥前島原松平文庫

松浦史料博物館

臼杵市立臼杵図書館

大分県立先哲史料館(佐野家寄託図書)

天草上田家

近代

函館市中央図書館

弘前市立弘前図書館

酒田市立光丘文庫

会津若松市立会津図書館

山田俊治

アド・ミュージアム東京

星槎ラボラトリー(眞山青果文庫)

横浜市中央図書館

静岡大学附属図書館(貸本屋旧蔵コレクション)

新潟県立図書館

大阪府立大学学術情報センター図書館(近代文庫)

大阪大学附属図書館(旧制高校)

大阪大学附属図書館(忍頂寺文庫)

和歌山大学附属図書館(紀州藩文庫)

祐徳稲荷神社(中川文庫等)

長崎県立長崎図書館

連携調査

立命館大学図書館(人文系文献資料室)

■平成28年度収集箇所一覧

北海道・東北地区

宮城県図書館(伊達文庫)

関東地区

法政大学(鴻山文庫)

中部地区

新潟大学附属図書館(佐野文庫)

富山市立図書館(山田孝雄文庫)

近畿地区

京都市歴史資料館

芭蕉翁顕彰会

陽明文庫

貝塚御坊願泉寺

相愛大学図書館(春曙文庫)

中国・四国地区

鳥取県立図書館

正宗文庫

総本山善通寺

宇和島伊達文化保存会

大洲市立図書館

愛媛大学図書館(鈴鹿文庫)

九州・沖縄地区

祐徳稲荷神社(中川文庫等)

肥前島原松平文庫

松浦史料博物館

杵築市立図書館

長崎県立対馬歴史民俗資料館(宗家文庫)

近代

横浜市中央図書館

山梨大学附属図書館(近代文学文庫)

立命館大学図書館(人文系文献資料室)

大阪大学附属図書館(忍頂寺文庫)

山田俊治

アーカイブズ

真田宝物館(真田家文書)

江川文庫

2 資料利用

図書館では、閲覧・文献複写サービスを行っています。遠隔地の利用者でも、図書館間の相互利用制度により、資料の複写等のサービスが利用できます。大学等に所属していない方は、直接郵送又はFAXにより複写申込をすることができます。また、電話等による所蔵調査や文書・FAX・メールによる参考質問も受け付けています。



図 書 館

利用案内

利用時間	開館時間	平日	9:30～18:00 (史料・貴重書の閲覧は9:30～17:30)
		土曜	9:30～17:00 (史料・貴重書の閲覧は9:30～16:30)
	書庫資料 閲覧受付	平日	9:30～12:00、13:00～17:00
		土曜	9:30～12:00、13:00～16:00
	複写受付		9:30～16:00
休 館 日		<ul style="list-style-type: none"> ・日曜日、祝日・振替休日 ・年末年始（12月27日から1月5日） ・保存環境整備期間（4月29日から5月5日） ・蔵書点検期間（3月26日から31日） ・第2第4水曜日 ・毎月の末日 ・夏季一斉休業日（8月12日から16日） ※その他、都合により臨時に休館・閉館する場合があります。掲示、当館Webページで確認してください。	
サービス	閱 覧	マイクロ資料、和古書（写本・版本）、史料、活字本・影印本、全国の地方史誌、逐次刊行物（土曜日は、史料、貴重書・特別コレクション・寄託資料の閲覧には事前予約が必要）	
	複 写	電子複写（リーダープリンターによる複写も含む）・ポジフィルム（ただし史料は除く）	
	撮 影	史料等、電子複写できない資料	
	貸 出	紙焼き写真本の一夜貸しサービス（一部を除く）	
	展 示 貸 出	図書館、文書館、博物館等への貸出	
	参 考 調 査	所蔵調査・参考質問の受付、回答	
	相 互 協 力	図書館間の相互協力（ILL）による文献複写、資料貸出	
問合せ	電 話	利用について	050-5533-2926 情報サービス第1係
		相互利用（ILL）	050-5533-2926 情報サービス第1係
		歴史資料について	050-5533-2930 情報サービス第2係
		資料の掲載について	050-5533-2930 情報サービス第2係
	F A X	042-526-8607	
	E-mail	etsuran@nijl.ac.jp	

所蔵資料

資料種別		点数等	冊数等
収集マイクロ資料	マイクロフィルム	日本文学	192,922点
		歴史	202件
	マイクロフィッシュ	日本文学	16,667点
	紙焼写真本	日本文学	—
歴史		—	
図書	写本・版本	17,628点	59,096冊
	活字本・影印本等	—	184,830冊
	逐次刊行物	8,976誌	—
所蔵史料		488件	約520,000点
寄託資料・寄託史料	日本文学	8件	9,534冊
	歴史	18件	7,230点

代表的な所蔵資料

日本文学関係資料

【貴重書】

春日懐紙（重要文化財）、天和2年荒砥屋版『好色一代男』、
組合せ絵入り古活字版『曾我物語』、鎌倉期写『新古今和歌集』、
奈良絵本『うつほ物語』、『新古今和歌集撰歌草稿』、鎌
倉期写『源氏物語』16帖ほか204点

【特別コレクション】

西下経一旧蔵の古今和歌集関係等のコレクション（初雁文庫）、
作家中村真一郎旧蔵の江戸、明治の漢詩文集のコレクション（日
本漢詩文集コレクション）、『徒然草』ほかのコレクション（高乗勲
文庫）、『新古今和歌集』を中心としたコレクション（懐風弄月文庫）、
田安德川家伝来の日記・記録、有職故実、文学、芸術関係ほか
の典籍類（田安德川家資料（田藩文庫ほか））、明治期の政治家
鵜飼郁次郎の収集による書物ならびに文書・記録類（鵜飼文庫）、
重要文化財の山鹿素行著述稿本を含む典籍類（山鹿文庫）、『伊
勢物語』とその関連書のコレクション（鉄心斎文庫）ほか23件

【寄託資料】

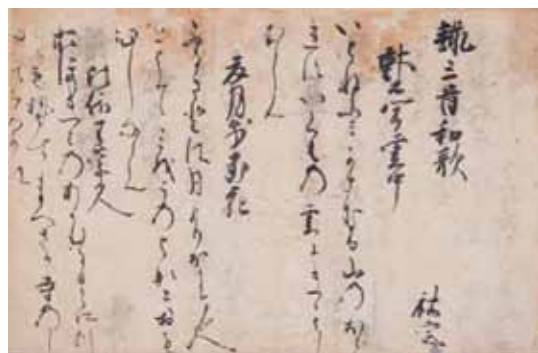
金子元臣旧蔵書6点、松野陽一氏蔵書104点、坂田穩好氏古
筆切コレクション145点、増田コレクション6,690枚50箱ほか8件

歴史関係資料

所蔵史料は近世・近代を中心に52万点に及び、地域的にはほとんどの都道府県を網羅している。

近世史料には『尾張国名古屋元材木町犬山屋神戸家文書』『信濃国高井郡東江部村山田庄左衛門家文書』
等の町方・村方文書が多数を占めるが、『信濃国松代真田家文書』『阿波国徳島蜂須賀文書』等の武家文書、『山
城国京都三条西家文書』等の公家文書や『山城国葛野郡嵯峨天龍寺塔頭臨川寺文書』等の寺社文書がある。

近代史料には『愛知県庁文書』『岡山県・広島県・鳥取県下市町村役場文書』等の県庁文書、戸長役場、
村役場文書がある。



春日懐紙（当館所蔵）



書庫

3 社会連携活動

研究成果を広く社会に還元するため、展示、講演会、シンポジウム、セミナー等、様々なイベントを開催しています。

展示

資料の調査研究や共同研究などで出された成果をもとに、1階に設置されている展示室にて開催しています。

平成29年度展示予定

特別展示

「伊勢物語のかがやき －鉄心斎文庫の世界－」

平成29年10月10日から12月16日まで開催予定

鉄心斎文庫は、品川区三和テッキ株式会社の元社長、故芦澤

新二氏が夫人の美佐子氏とともに40年の歳月と情熱をかけて収集した、世界に類を見ない「伊勢物語」のコレクションであり、平成27年度に約1000点が当館へ寄贈されました。

「伊勢物語」は単なる古典文学の一つではなく、日本文化を形成する基盤的作品として位置付けられます。鉄心斎文庫の有する「伊勢物語」の優品約90点を展示し、古典文学が有する文化力を社会に発信いたします。



展示室

通常展示

「和書のさまざま」

平成29年4月から5月27日及び平成30年1月15日から3月まで開催予定

和書について、まず形態的に、次に内容的な構成を説明した上で、各時代の写本・版本や特色ある本を紹介し、併せて和書の性質を判断する場合の問題をいくつか取り上げており、全体を通して和書の基本知識を学ぶとともに、和書について考えるきっかけとなることをも意図しています。

通常展示

「書物で見る 日本古典文学史」

平成29年6月12日から9月16日まで開催予定

上代から明治初期までの文学を、書物（古典籍）によってたどります。最近の研究動向にも配慮をしておりますが、むしろ教科書でなじみの深い作品を中心に据えて、文学史の流れを示しました。

写本の表情や版本の風合いに触れながら、豊かな日本古典文学史の諸相をお楽しみいただけるようにしております。

特設コーナー

通常展示開催期間中、展示室の一部のスペースを使って、特設コーナーを設け、当館の新収資料等を展示しております。

これまで開催した主な展示

●特別展示「鴨長明とその時代—『方丈記』800年記念」

平成24年5月25日～6月23日

平成24年が『方丈記』執筆800年になるのを記念して、特定研究「大福光寺本「方丈記」を中心とした鴨長明作品の文献学的研究」の研究成果により「鴨長明とその時代」をテーマに特別展示を行いました。

●常設展示「和書のさまざま」

平成25年4月1日～平成26年3月31日

和書について、形態的・内容的な構成を説明した上で、各時代の写本・版本や特色のある本を紹介しました。また、常設展示の一部のスペースを使って、特設コーナーを設け、当館の新収資料等も展示しました。

●企画展示「渋沢敬三からのメッセージ 渋沢栄一「青淵翁記念室」の復元×渋沢敬三の夢みた世界」

平成25年9月13日～10月14日

渋沢敬三が構想した日本実業史博物館における「渋沢青淵翁記念室」資料のデータベース構築による成果を基に、渋沢史料館の収蔵史料との比較研究を実施し、「渋沢青淵翁記念室」を復元した展示を開催しました。

●常設展示「和書のさまざま」

平成26年4月1日～9月22日

前年度に引続き、和書について、まず形態的に、次に内容的な構成を説明した上で、各時代の写本・版本や特色ある本を紹介しました。

●特別展示「中原中也と日本の詩」

平成26年10月9日～11月5日

昭和初期に活躍した詩人・中原中也(1907-1937)が、先行する詩人からどのような影響を受け、後世の詩人にどのような影響を与えたのか。日本の近現代詩史を中原中也という詩人を視座として再構成しながら、中也の詩の独自性を明らかにする展示を開催しました。

●通常展示「書物で見る 日本古典文学史」

平成26年度から実施

上代から明治初期までの文学を、書物(古典籍)によってたどり、最近の研究動向にも配慮をし、教科書でなじみの深い作品を中心に据えて、文学史の流れを示しました。

●特別展示「韓国古版画博物館名品展」

平成27年10月13日～11月22日

韓国の古版画については、韓国国内でもあまり知られておりませんが、韓国にも非常に豊かな版画の世界があり、韓国古版画博物館の協力を得て、韓国古版画の優品を展示しました。

●通常展示「和書のさまざま」

平成27年度から実施

前年度に引続き、和書について、まず形態的に、次に内容的な構成をした上で、各時代の写本・版本や特色ある本を紹介しました。

●特設コーナー

平成25年度から実施

常設展示、特別展示、通常展示の一部のスペースを使って、特設コーナーを設け、当館の新収資料等を展示しました。

■講演会等

(1)連続講座

日本文学の普及を図るため、一般の方を対象として、くずし字を読む講座を開催します。

平成29年度は「百人一首」を読む講座を5月～9月に全8回行います。



平成28年度 連続講座

(2)アーカイブズ・カレッジ

記録史料の保存と利用サービス等の業務を担う専門職員の養成のため、長期コースと短期コースを開催しています。

長期コースは、7月18日(火)～9月8日(金)の間の計6週間、国文学研究資料館で開催し、短期コースは京都府立京都学・歴彩館において11月13日(月)～11月18日(土)に開催を予定しています。



平成28年度 アーカイブズ・カレッジ長期コース

(3)「古典の日」講演会

「古典の日」は、源氏物語千年紀にあたる平成20(2008)年11月1日にちなんで、源氏物語千年紀委員会(後に古典の日推進委員会と改称)が「11月1日は古典の日」と全国に宣言したのをきっかけに法制化が実現しました。当館も記念の講演会を開催しており、平成29年度は11月3日(金・祝)に予定しています。



平成28年度 「古典の日」講演会

(4)日本古典籍講習会

国内外の日本の古典籍を扱っている図書館や文庫の司書を対象とし、古典籍の基礎知識・取り扱い等に関する講習会を国立国会図書館との共催で開催しています。

平成29年度は、平成30年1月下旬頃に4日間の開催を予定しています。



平成28年度 日本古典籍講習会

主要出版物一覧

当館の紹介など

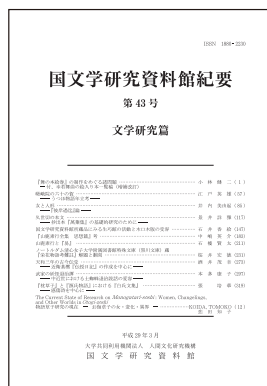
- 国文学研究資料館概要
- 国文学研究資料館年報
- 国文研ニュース（季刊広報誌）



国文研ニュース

研究成果

- 国文学研究資料館紀要
文学研究篇
アーカイブズ研究篇
- 研究成果報告書
- シンポジウム報告書



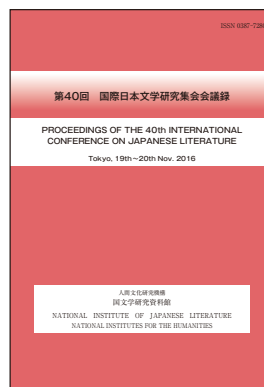
紀要 文学研究篇



研究成果報告書 特定研究
「歴史叙述と文学」

事業関係

- 調査研究報告
- 史料目録
- 国際日本文学研究集会会議録
- 展示図録



国際日本文学研究集会 会議録

国際交流

日本の文学は世界中で研究されています。世界の文学研究の視野を取り入れて日本の文学を見つめることは、日本文学研究の大切な問題です。このような認識のもとに当館では、平成28年度に国際連携部を設置し、国際交流活動の活性化を図るとともに、海外において研究集会、シンポジウムを開催するなど、積極的な活動を行っています。

1 学術交流協定の締結

日本文学研究の国際的な拠点として、海外の研究機関及び研究者との多様な学術交流事業を積極的に進めています。特に海外機関との学術交流協定を締結することにより、安定的かつ継続的な研究交流が実現できるように努めています。

交流の内容としては、研究者の招聘・派遣、国際研究集会の開催を中心に、共同調査、共同研究の実施、大学院生等の短期研修受入についても構想しています。

現在、以下の海外機関と学術交流協定を締結しています。

- コレージュ・ド・フランス日本学高等研究所（フランス共和国）
- 高麗大学校日本研究センター（大韓民国）
- ヴェネツィア国立大学「カ・フォスカリ」アジア・地中海アフリカ学科（イタリア共和国）
- ナポリ大学「オリエンターレ」（イタリア共和国）
- サピエンツァ ローマ大学イタリア東洋研究ディパルティメント（イタリア共和国）
- フィレンツェ大学古代・中世・ルネサンス研究及び言語学ディパルティメント（イタリア共和国）
- 北京外国語大学北京日本学研究中心（中華人民共和国）
- ライデン大学人文学部（オランダ王国）
- ブリティッシュ・コロンビア大学文学部アジア研究学科（カナダ）
- コロンビア大学東アジア言語文化学部（アメリカ合衆国）
- カリフォルニア大学バークレー校C.V.スター東アジア図書館（アメリカ合衆国）
- ベルリン国立図書館（ドイツ連邦共和国）
- バチカン図書館（バチカン市国）
- ハワイ大学マノア校東アジア言語文学学科（アメリカ合衆国）
- ハイデルベルク大学日本学科（ドイツ連邦共和国）



平成29年2月16日にハワイ大学マノア校東アジア言語文学学科と学術交流協定を締結

2 国際日本文学研究集会

国内外の日本文学研究者の交流を深め、また、外国人の若手日本文学研究者の育成をも視野に入れ、日本文学研究の発展を図るため、毎年秋に開催しています。

平成29年度は11月11日（土）～12日（日）に第41回国際日本文学研究集会を開催します。若手の研究者や外国人研究者がより参加しやすくするために、研究発表・ショートセッション発表及びポスターセッション発表の3つのセッションにおいては、テーマを設定しないこととし、英語による発表も可能としています。



第40回国際日本文学研究集会
(平成28年11月19日～20日)

3 海外におけるシンポジウム等

日本文学及び関連領域について、海外の研究者や研究機関と連携し、国際シンポジウム等を開催しています。

マレガ・ワークショップ

「バチカン図書館所蔵マレガ文書の保存と修復
-技術の交流と創発-」

平成28年10月5日～10月6日

バチカン図書館情報学々校、バチカン図書館修復室
(バチカン市国)



マレガ・ワークショップ

4 古典籍に関するセミナー

日本文化の礎である古典籍について、海外の研究者や研究機関等と連携し、書誌学や書物文化を中心としたセミナーを開催しています。

平成28年5月5日～5月7日

平成29年2月1日～2月3日

平成29年2月17日

平成29年3月3日

プリンストン大学(アメリカ合衆国) ※くずし字講習会

セインズベリー日本藝術研究所(イギリス) ※くずし字講習会

ホノルル美術館(アメリカ合衆国)

カリフォルニア大学バークレー校C. V. スター東アジア図書館
(アメリカ合衆国)



セインズベリー日本藝術研究所



ホノルル美術館

ホノルル美術館のウェブサイトに掲載されました
<http://blog.honoluluacademy.org/uh-uses-museums-richard-lane-collection-for-workshop/>

5 海外研究者との交流(外国人研究員・外来研究員)

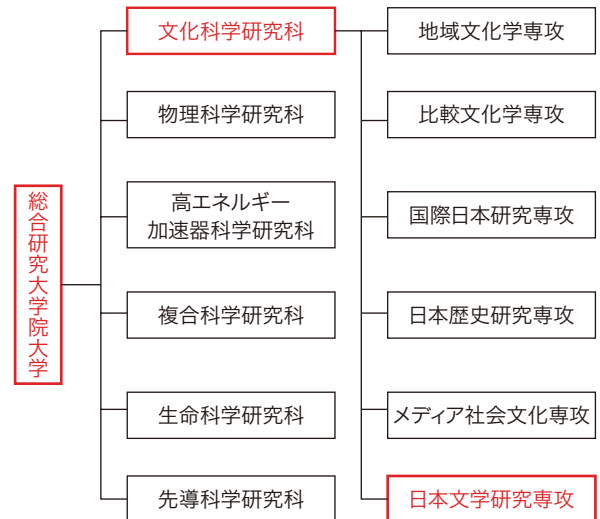
日本文学研究の国際化を促進するために、広く海外において第一線で活躍する日本文学及びその周辺の研究者を外国人研究員(客員教授、客員准教授)として招聘し、学術資料の利用及び人材交流の場として当館を提供しています。また、海外の研究者等の要請に応じ、当館を拠点にして学位論文執筆や様々な研究活動を行う者を外来研究員として受け入れています。

大学院教育

■総合研究大学院大学文化科学研究科 日本文学研究専攻

国文学研究資料館は、総合研究大学院大学（本部は神奈川県葉山町）文化科学研究科日本文学研究専攻の基盤機関となっています。

本専攻は、平成15（2003）年度に設置され（入学定員各学年3名）、博士後期課程（ドクターコース）のみの教育研究を行っています。国文学研究資料館が豊富に所蔵している原典資料を文化情報資源として位置づけ、これを活用して、書物及び作品としての特質や、隣接諸学との関連などを総合的に研究することを通じて、専門研究者を育成することを目的としています。



平成28年度春季学位記授与式

■特別共同利用研究員制度

国公立大学の要請に応じ、大学院における教育に協力するため、学生の研究指導を行っています。

この目的のため、昭和54年度から大学院教育協力制度を発足させ、大学院生の受入れを開始し、平成10年度から特別共同利用研究員として受入れの拡充を図りました。

大学院に在籍し、日本文学、歴史学及びこれらに関連する分野を専攻する者を受入対象とし、毎年10人程度を受け入れています。受入期間は、原則として1年間です。

(単位：人)

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
受入人数	8	6	5	9	7

公開データベース

日本文学及びその関連領域研究のため、当館では様々なデータベースを作成しています。
平成29年4月1日において、以下のデータベースを当館Webサイトの電子資料館のページ (<http://www.nijl.ac.jp/pages/database/>)から公開しています。

図書・雑誌所蔵目録(OPAC)	当館所蔵の明治期以降の図書、雑誌(逐次刊行物)の目録。
国文学論文目録データベース	国文学関係論文(大正元年～平成28年)の目録。
日本古典籍総合目録データベース	日本の古典籍の書誌・所在情報を、著作・著者の情報(典拠情報)とともに提供する総合目録。
館蔵和古書目録データベース	当館所蔵の和古書の目録。
古典選集本文データベース	二十一代集、絵入源氏物語、吾妻鏡、歴史物語、奈良絵本の当館蔵書底本テキストの全文検索と画像閲覧。
所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	平成23年度科学研究費補助金に基づく広島大学附属図書館所蔵「読本」コレクションの画像公開。
日本古典資料調査データベース	当館が調査してきた国内外の写本・版本等の「文献資料調査カード」から主要な書誌情報を抽出。
近代書誌・近代画像データベース	明治期以降の国文学を中心とした文献資料の調査・収集の成果を公開。
収蔵歴史アーカイブズデータベース	史料館旧蔵の資料群を中心とした当館収蔵歴史資料(アーカイブズ)の概要及び目録を収録。
コーニツキー・欧州所在日本古書総合目録データベース	欧州各国の図書館・美術館・博物館等所蔵の「日本の和装本」の書誌・所在情報。
明治期出版広告データベース	近代日本の出版事情を探ることを目的とし、明治前期の新聞・雑誌等に掲載された出版物の広告を集成。
歴史人物画像データベース	国書古典籍中の絵入り叢伝から、主に明治以前の古典キャラクターの人物画像を収録。また、伝記解題は当館所蔵の典籍やマイクロフィルムに収録される人物伝・人物叢伝の内容の解題と、どんな人物が収録されているかをデータベース化。
連歌・演能・雅楽データベース	連歌データベースと演能データベースを連結し、新規作成の雅楽データベースを添え、セットにして公開。
新奈良絵本データベース	当館所蔵の奈良絵本(19本)の原本画像を公開(翻刻付)。
古事類苑データベース	日本の古代から近世までの制度・文物・社会に関する百科事典『古事類苑』大正洋装本のデータベース。
古典学統合データベース(地下家伝・芳賀人名辞典)	日本の古典研究に関わる人物情報を収録。現在、『日本人名辞典』と『地下家伝』を搭載。
古筆切所収情報データベース	『古筆切提要』以後に影印刊行された古筆切類の所収情報。
日本文学国際共同研究データアーカイブ	科研費基盤研究(S)「国際コラボレーションによる日本文学研究資料情報の組織化と発信」により構築された、海外の研究目録・論文画像・翻訳作品等のデータベースをアーカイブ化。
蔵書印データベース	当館所蔵の古典籍を中心に、原本から採取した蔵書印情報を印影とともに収録。
アーカイブズ学文献データベース	アーカイブズ学に関する国内研究文献データベース。個々の文献で章立てがあるものは「内容」に全て採録。
史料情報共有化データベース	国内外で公開されている資料群(アーカイブズ)情報(歴史資料を公開する各収蔵機関による共同構築)。
日本実業史博物館コレクションデータベース	日本実業史博物館準備室旧蔵資料のうち絵画・器物・広告・文書・書籍の資料情報と画像を公開。
館蔵社寺明細帳データベース	当館所蔵の戦前期における全国の神社明細帳に関する神社名・所在地・社格等を収録。
伊豆葎山江川家文書データベース	財団法人江川文庫が所蔵する古文書・文芸関係の目録情報を同文庫との協業により公開。
史料所在情報データベース	国内各地に伝来する資料群の所在・概要情報(詳細版は利用登録制)。
増田太次郎広告コレクションデータベース	増田太次郎氏が収集した広告類の主要部分の書誌情報・画像を公開。
在外日本古典籍所蔵機関ディレクトリ	日本の古典籍を所蔵する日本国外の機関の連絡先、閲覧の可否等の情報を英語(一部日本語も有)で提供。
断本大系本文データベース	『断本大系』(東京堂出版刊)の全文検索。
日本古典文学大系本文データベース	旧版『日本古典文学大系』(岩波書店刊)の全文検索(大学・短大以上の高等教育機関などに対して公開)。

※1 新日本古典籍総合データベースについては、13頁をご覧ください。

※2 学術情報リポジトリについては、こちらをご覧ください。<https://kokubunken.repo.nii.ac.jp>

教員一覧 (平成 29 年 4 月 1 日現在)

館長

氏名	研究内容
ロバート キャンベル Robert CAMPBELL	日本文学 (近世から明治の文学およびそれに関連する芸術・思想・メディアなど)

研究部教員

氏名	職名	研究内容
小林 健二 KOBAYASHI Kenji	教授 副館長 (企画調整担当)	室町期文芸 (能・狂言、幸若舞曲、お伽草子など)の研究
谷川 恵一 TANIKAWA Keiichi	教授 副館長 (研究担当)	近代文学成立期の研究
大友 一雄 OTOMO Kazuo	教授 (研究主幹)	近世日本の記録管理、アーカイブズの歴史
神作 研一 KANSAKU Ken-ichi	教授 (研究主幹)	日本近世文学、特に和歌史・学芸史の研究
齋藤 真麻理 SAITO Maori	教授 (研究主幹)	中世文学の研究
落合 博志 OCHIAI Hiroshi	教授	中世文学・中世芸能の研究、古典籍書誌学の研究
山下 則子 YAMASHITA Noriko	教授	近世文学・芸能の研究。特に絵本・浮世絵を対象とし、四世鶴屋南北作歌舞伎の作品研究も行う。
渡辺 浩一 WATANABE Koichi	教授	近世都市の社会構造、アーカイブズ史
相田 満 AIDA Mitsuru	准教授	中古・中世日本文学、幼学書を中心とする学問・注釈学、説話文学、人文情報学
青木 睦 AOKI Mutsumi	准教授	史料保存に関する研究
青田 寿美 AOTA Sumi	准教授	日本近代文学、特に明治大正期の評論・小説の研究
入口 敦志 IRIGUCHI Atsushi	准教授	近世文学研究
海野 圭介 UNNO Keisuke	准教授	中世文学・和歌文学の研究、禁裏公家を中心とした古典学に関する研究
太田 尚宏 OTA Naohiro	准教授	近世日本における地域行政の研究、近世史料学の研究
加藤 聖文 KATO Kiyofumi	准教授	近代以降の東アジアと日本との関係
木越 俊介 KIGOSHI Shunsuke	准教授	日本近世文学、特に小説史の研究
小山 順子 KOYAMA Junko	准教授	古典和歌を中心とする韻文学の研究
ダヴァン ディディエ DAVIN Didier	准教授	中世仏教と文学
西村 慎太郎 NISHIMURA Shintaro	准教授	近世日本における天皇・朝廷・身分研究、民間所在資料の保存・利活用に関する研究
野網 摩利子 NOAMI Mariko	准教授	日本近代文学、夏目漱石研究、日本近代における東西古典の受容
野本 忠司 NOMOTO Tadashi	准教授	国文学研究における情報利用の高度化に関する研究

氏名	職名	研究内容
宮間 純一 MIYAMA Jyun-ichi	准教授	近代国家成立期の研究、記録管理史の研究
江戸 英雄 EDO Hideo	助教	中古文学、特に物語文学の研究
恋田 知子 KOIDA Tomoko	助教	中世文芸の研究
リーブズ クリストファー REEVES Kristopher	助教	平安朝の漢詩文及び唐詩との比較研究・漢詩の文体論
湯上 良 YUGAMI Ryo	特任助教	近世・近代ヴェネツィアにおける社会構造の研究。イタリアやパチカンにおけるアーカイブズ史とアーカイブズ行政の研究

研究部客員教員

氏名	職名	研究内容
山本 登朗 YAMAMOTO Tokuro	客員教授	基幹研究「鉄心斎文庫資料の基礎的研究」における目録作成、展示
二宮 修治 NINOMIYA Syuji	客員教授	被災アーカイブズの保存科学分析に関する研究

古典籍共同研究事業センター教員 (平成29年4月1日現在)

氏名	職名	研究内容
谷川 恵一 TANIKAWA Keiichi	センター長 (併任)	近代文学成立期の研究
山本 和明 YAMAMOTO Kazuaki	副センター長 特任教授	19世紀文学の研究
北村 啓子 KITAMURA Keiko	准教授	人文科学分野を対象とする情報科学理論の研究
岩橋 清美 IWAHASHI Kiyomi	特任准教授	近世地域文化史研究、史料管理史研究
井黒 佳穂子 IGURO Kahoko	特任助教	中世から近世初期にかけての絵巻・絵入り本に関する研究
松田 訓典 MATSUDA Kuninori	特任助教	人文学におけるコンピューター利用に関する研究

参考データ

職員・予算・施設 (平成29年度)

職員	(単位：人)	予算	(単位：千円)	施設	(単位：m ²)
館長	1	収入	1,213,645	建物面積 専有面積	13,002
教授	8	運営費交付金	1,206,716	上記の内	
准教授	15	自己収入	6,929	閲覧室	1,612
助教	3	支出	1,213,645	書庫・収蔵庫	2,416
特任教授	1	教育研究経費	766,144	展示室	355
特任准教授	1	一般管理費	447,501		
特任助教	3				
事務系職員	35				
合計	67				

科学研究費助成事業 (学術研究助成基金助成金/科学研究費補助金) (平成29年度)

(単位：円)

研究種目	審査区分	研究代表者	研究課題名	直接経費
基盤研究(A)	一般	今西祐一郎	日本古典籍における表記情報学の発展的研究	6,200,000
基盤研究(A)	一般	相田 満	日本における「生き物供養」「何でも供養」の連環的研究基盤の構築	6,500,000
基盤研究(A)	一般	青木 睦	地域社会還元型の公文書活用システム構築に関する学際的研究	9,200,000
基盤研究(A)	海外学術調査	大友 一雄	パチカン図書館所蔵豊後切支丹資料の国際的情報資源化に関する海外学術調査研究	6,300,000
基盤研究(B)	一般	海野 圭介	金剛寺聖教・文書類を基盤とした社寺ネットワークの解明とその蔵書史的研究	3,100,000
基盤研究(B)	一般	小林 健二	語り物を題材とした絵巻・絵本の国際的調査研究	4,700,000
基盤研究(B)	海外学術調査	山下 則子	在外絵入り本を中心とする書誌・出版・解釈の総合的研究	2,400,000
基盤研究(C)	一般	武井 協三	17世紀歌舞伎の演技・演出—文献資料・絵画資料・民俗資料による総合研究—	700,000
基盤研究(C)	一般	北村 啓子	拡張現実技術を利用しデジタル展示と展示原本とを連続的に融合するための基礎技術開発	事業期間延長
基盤研究(C)	一般	石澤 一志	中近世期における九条家蔵書の形成と流伝に関する研究	事業期間延長
基盤研究(C)	一般	小林 健二	『舞の本絵巻』を中心とした幸若舞曲の絵入り本の調査研究	事業期間延長
基盤研究(C)	一般	齋藤真麻理	中・近世日本における中国明代日用類書の変成—異類・異界表現を中心に—	事業期間延長
基盤研究(C)	一般	野網摩利子	夏目漱石によるイギリス受容—小説理論の構築の一環として	事業期間延長
基盤研究(C)	一般	神作 研一	近世歌合の総合的調査・研究	800,000
基盤研究(C)	一般	山本 和明	古典籍をめぐる幕末明治期における人的交流に関する基礎的研究	500,000
基盤研究(C)	一般	太田 尚宏	近世・近代移行期における森林政策アーカイブズの研究	900,000
基盤研究(C)	一般	三野 行徳	明治初年武家の北海道移住に関するアーカイブズの復元的研究	1,100,000
基盤研究(C)	一般	恋田 知子	16・17世紀における物語草子制作と仮名法語の開版の相関性についての研究	1,000,000
基盤研究(C)	一般	寺島 恒世	歌と絵と書の融合芸術としての歌仙絵作品の成立及び展開に関する抜本的総合研究	900,000
基盤研究(C)	一般	木越 俊介	19世紀初頭・長編小説生成期における構成・素材・記述に関する総合的研究	900,000
基盤研究(C)	一般	大高 洋司	後期読本の長編構成に関する複眼的検討	700,000
基盤研究(C)	一般	齋藤真麻理	中世日本における画題享受史の構築	1,100,000
基盤研究(C)	一般	湯上 良	20世紀の日本・イタリア・パチカンにおける民間所在資料や地方公文書の管理	700,000
基盤研究(C)	一般	岩橋 清美	江戸考証家の古器物収集に見る歴史意識の特質とネットワークに関する研究	1,000,000
挑戦的萌芽研究		相田 満	観相資料の学際的研究—マンガも視野に入れた古籍観相資料の分析と応用—	500,000
挑戦的萌芽研究		海野 圭介	田安德川家旧蔵の入道伝書の分析を起点とした社会知の生成と流通に関する研究	700,000
挑戦的萌芽研究		野本 忠司	文字画像データベースを用いたテキスト化に依存しない汎用毛筆画像検索の研究	600,000
挑戦的萌芽研究		青田 寿美	蔵書印データベースの機能強化による典籍移動史の可視化の為の情報プラットフォーム整備	800,000
若手研究(B)		高科 真紀	LEDによる紙資料展示照明の管理に関する検証研究	600,000
若手研究(B)		小山 順子	戦国時代禁裏文芸の総合的研究	600,000
研究活動スタート支援		小林 昭菜	戦後のソ連における日本人捕虜1945年～1956年	1,100,000
研究活動スタート支援		宮間 純一	大名華族のアーカイブズ資源研究—「下総佐倉堀田家文書」を素材に—	400,000
特別研究員奨励費		野村 亞住	季吟門連句の研究	600,000
国際共同研究加速基金		野網摩利子	夏目漱石によるイギリス受容—小説理論の構築の一環として (国際共同研究強化)	0
研究成果データベース		神作 研一	日本古典籍総合目録	2,000,000
研究成果データベース		相田 満	日本文学研究論文の総合目録データベース (大正・昭和・平成)	3,100,000
研究成果データベース		山本 和明	所蔵機関との連携による日本古典籍デジタル画像データベース	6,400,000
研究成果データベース		青田 寿美	明治前期出版広告データベース	2,700,000

※平成28年度に研究期間全体(平成28年度～30年度)の研究費(10,300千円)が交付済。



大学共同利用機関法人

人間文化研究機構

National Institutes for the Humanities

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構（略称：人文機構）は、4つの大学共同利用機関法人のうちの1つであり、人間文化研究にかかわる6つの大学共同利用機関で構成されています。それぞれの機関は、人間文化研究の各分野におけるわが国の中核的研究拠点、国際的研究拠点として基盤的研究を深める一方、学問的伝統の枠を超えて相補的に結びつき、国内外の研究機関とも連携して、現代社会における諸課題の解明と解決に挑戦しています。真に豊かな人間生活の実現に向け、人間文化の研究を推進し、新たな価値の創造を目指します。

研究推進・情報発信事業

人文機構は、平成28年度に総合人間文化研究推進センターと総合情報発信センターを設置しました。2つのセンターでは、6つの機関をハブとした研究ネットワークを構築して国際共同研究を推進するとともに、国内外への積極的な発信や次代を担う若手研究者の育成に取り組みます。

総合人間文化研究推進センター

6つの機関と国内外の大学等研究機関や地域社会との連携・協力を促進し、人間文化の新たな価値体系の創出に向けて、現代的諸課題の解明に資する組織的共同研究「基幹研究プロジェクト」を推進しています。

総合人間文化研究推進センターが推進する基幹研究プロジェクト

機関拠点型	総合資料学の創成と日本歴史文化に関する研究資源の共同利用基盤構築
	日本語の歴史的典籍の国際共同研究ネットワークの構築
	多様な言語資源に基づく総合的日本語研究の開拓
	大衆文化の通時的・国際的研究による新しい日本像の創出
	アジアの多様な自然・文化複合に基づく未来可能社会の創発
広領域連携型	人類の文化資源に関するフォーラム型情報ミュージアムの構築
	日本列島における地域社会変貌・災害からの地域文化の再構築
	アジアにおける「エコヘルス」研究の新展開
ネットワーク型	異分野融合による「総合書物学」の構築
	地域研究推進事業：北東アジア、現代中東、南アジア
ネットワーク型	日本関連在外資料調査研究・活用事業： ハーグ国立文書館所蔵平戸オランダ商館文書調査研究・活用 ヨーロッパにおける19世紀日本関連在外資料調査研究・活用 パチカン図書館所蔵マリオ・マレガ収集文書調査研究・保存・活用 北米における日本関連在外資料調査研究・活用 プロジェクト間連携による研究成果活用

4つの大学共同利用機関法人



人文機構本部と6つの大学共同利用機関の所在地



総合情報発信センター

人間文化にかかわる総合的学術研究資源をデジタル化することで、広く国内外の大学や研究者への活用を促進するとともに、社会との双方向的な連携を強化することで、研究成果の社会還元を推進しています。

総合情報発信センターの情報・発信事業

研究資源高度連携事業 nihuINT http://int.nihu.jp 機構内外の情報資源を統合検索する、人間文化研究データベース
情報発信事業 リポジトリ 国際的に研究成果を発信するため各機関でリポジトリを公開 研究者データベース http://nrd.nihu.jp/ 機構所属の研究者情報を一元的に公開する研究者データベース運用 国際リンク集 http://www.nihu.jp/sougou/kyoyuka/japan_links 日本文化研究情報への総合的アクセスを支援するためのリンク集を構築し運用 NIHU Magazine https://www.nihu.jp/ja/publication/nihu_magazine 機構の最新の研究活動、成果を海外に発信するウェブマガジン
人文機構シンポジウム 研究活動及び研究成果を広く社会に発信 第28回 妖怪空間—でそうな場所— (H28年6月) 第29回 和食文化の多様性—日本列島の食文化を考える— (H28年10月) 社会連携事業 産業界や外部機関と連携し、研究成果の社会還元を推進

基幹研究プロジェクト

機構の6機関と国内外の大学等研究機関、地域社会等と広領域連携する新たな研究システムのもと、(Ⅰ)機関拠点型、(Ⅱ)広領域連携型、(Ⅲ)ネットワーク型(地域研究および日本関連在外資料調査研究・活用)の3類型、17の基幹研究を推進しています。各プロジェクトの研究成果は、出版、データベース、映像や展示等により学界や社会にむけて発信するとともに、連携する大学と教育プログラムの構築・活用をする計画です。また、各プロジェクトの研究成果をまとめたニュースレター『きざし』も発行しています。

国際連携

人間文化研究にかかわる諸外国の研究機関との研究協力関係を構築し、外国人研究者招へいや研究者の海外派遣を進めるとともに、海外での国際シンポジウムの開催、講師の派遣を積極的に推進しています。また、英国の芸術・人文リサーチ・カウンシル(AHRC)との協定に基づいて日本研究を専攻する大学院生・若手研究者を受け入れて研究指導を行うなど、海外の研究者育成にも寄与しています。

社会連携

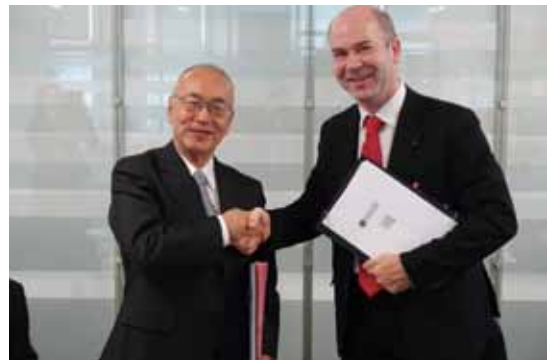
人間文化研究成果を広く発信し、社会に還元することを目的として、一般向けのシンポジウムや各種メディアの記者等を対象とした懇談会を、多様な業界と連携して定期的に開催しています。2016年度は、NPO法人Earth Literacy Programと連携してデジタルコンテンツ『水の器』を制作し、「触れる地球ミュージアム」で展示しました。また、公益財団法人味の素の文化センターとの共催によるシンポジウムや一般社団法人大学出版部協会との共催によるメディア懇談会を開催しました。

大学院教育

国立大学法人総合研究大学院大学(総研大)の基盤機関として、文化科学研究科に4つの機関が各機関の特色を生かした5つの専攻(博士後期課程)を設置し、高い専門性と広い視野を持った研究者を養成しています。また、機構の6つの機関では、他大学の大学院生を受け入れてその研究を支援するなど、次世代を担う人材育成に貢献しています。



国際ワークショップ「パチカン図書館所蔵マレガ文書の保存と修復—技術の交流と創発—」(於：パチカン図書館)



フランス社会科学高等研究院(EHESS)との学術交流・協力協定を締結



第28回人文機構シンポジウム「妖怪空間—でそんな場所—」(於：有楽町朝日ホール)



パリ日本文化会館との連携キックオフ・シンポジウム「厄災の時代を生き抜くための人文知」(於：パリ日本文化会館)



デジタル地球儀「触れる地球」のコンテンツ『水の器』



交通のご案内

多摩都市モノレール利用の場合

JR立川駅下車、多摩モノレール立川北駅に乗り換え、高松駅下車、徒歩10分

立川バスの場合

JR立川駅北口2番のりば乗車、「立川学術プラザ」バス停下車、徒歩1分

JR立川駅北口1番のりば乗車、「立川市役所」バス停下車、徒歩3分

JR立川駅北口2番のりば乗車、「裁判所前」バス停下車、徒歩5分

徒歩の場合

JR立川駅下車、徒歩約25分

自動車利用の場合

中央自動車道「国立府中IC」から約15分

※無料駐車場あり

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

国文学研究資料館

〒190-0014 東京都立川市緑町10-3

TEL: 050-5533-2900

FAX: 042-526-8604

<http://www.nijl.ac.jp/>

National Institute of Japanese Literature (NIJL)
National Institutes for the Humanities

Address: 10-3 Midori-cho, Tachikawa city, TOKYO 190-0014, Japan

TEL: +81-50-5533-2900

FAX: +81-42-526-8604